

「帯状疱疹ワクチンに関する実態について」

稗田 史子、西田 早矢

1. 気づきとニーズの明確化

水痘・帯状疱疹ウイルス(VZV)は、初感染で水痘を引き起こした後、知覚神経節に潜伏感染しているが、免疫低下などが誘因となり再活性化を起こして帯状疱疹を生じる。日本での帯状疱疹の発生頻度は年間 1,000 人当たり 5 人程度とされている。加齢に伴い増加する傾向があり、50 歳を境に発症率が急激に上昇し、70 歳以上では 1,000 人当たり 10 人以上となる。高齢化が進行している日本においては、今後ますます患者の増加が予想される。¹⁾ アシクロビルを始めとした抗ウイルス薬によって治療成績は向上したが、帯状疱疹後神経痛(PHN)等により QOL 低下を来す場合が少なくなく、ワクチンでの発症予防が重要となる。2016 年 3 月より(乾燥弱毒生)水痘ワクチンが高齢者の帯状疱疹予防目的で使用可能となり、2020 年 1 月よりシングリックス(乾燥組換え帯状疱疹ワクチン)が日本で販売開始となった。予防医療として診察時に上記の話題提供をすることがあったが、知名度は低い印象であり、実際に接種を希望される患者が少なかった。

そのため、実際にどの程度接種されているかを調査してみようと考えた。

2. 明確化したニーズに関連した地域やコミュニティの設定

今回は複数人での地域診断であり、診療の場が異なることを活かし、東近江総合医療センター、及び、淀さんせん会 金井病院で調査を行うこととした。対象地域と想定する滋賀県東近江市は 11.4 万人、京都市伏見区は 28.0 万人であった。

3. Secondary data の収集と結果

(単位：例)

	接種可能なべ人数 (回数)	製造販売業者からの報告	医療機関からの報告	
		報告数 () : 接種日が左記期間内の症例	報告数 () : 接種日が左記期間内の症例	
		報告頻度	報告頻度	うち重篤
令和2年5月1日 ~令和2年9月30日	7,701	4 (2) 0.052% (0.026%)	0 (0) 0% (0%)	0 (0) 0% (0%)
(参考) 販売開始~ 令和2年9月30日	10,192	6 0.059%	0 0%	0 0%

※1人あたり0.5mL接種されたと仮定した。

2)

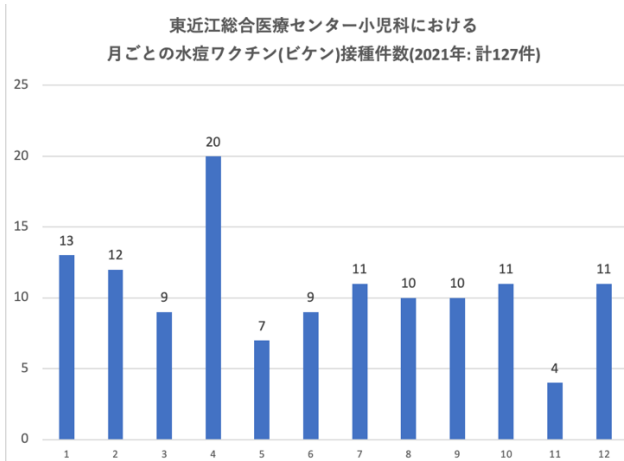
グラクソ・スミスクライン社が副反応報告状況として提出された資料によると、約 8 ヶ月で 10000 回(推定 5000 人)分のシングリックスが医療機関へ納入された。冷蔵で 3 年間保存可能 → 全例使用していても、1 県あたり 106 人、人口比で(日本と各市町村)で単純比較すると東近江市で 4.5 人、京都市伏見区で 21.5 人となった。

○Primary data の収集

(日本でシングリックスが発売開始された 2020 年 1 月からのデータ)を試みた。

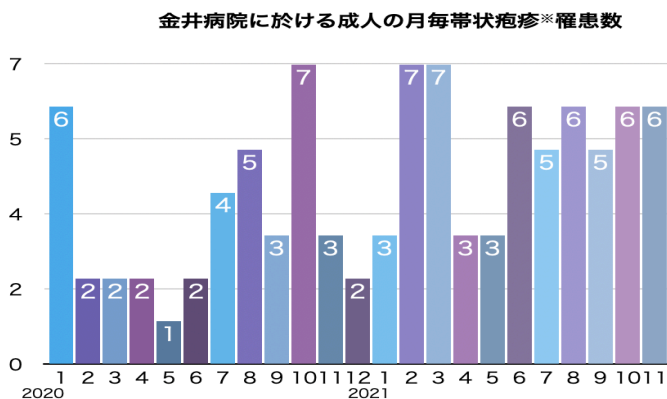
●東近江総合医療センター(病床数 320 床(一般 304 床・結核 16 床)の急性期総合病院)

シングリックスの採用がなく、水痘ワクチン(ビゲン)の接種は小児の定期接種以外で行った人も直近 1 年間で認めなかった。

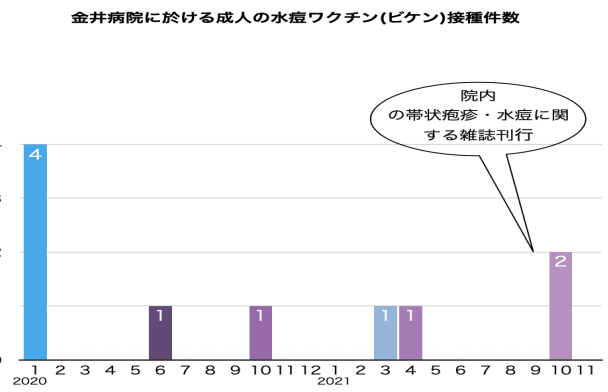


●淀さんせん会 金井病院(病床数 128 床(急性期 43 床・障害者 45 床・地域包括 40 床)のコミュニティホスピタル)

- ・小児の帯状疱疹罹患者はこの期間ではいなかった。
- ・金井病院に於いて、この期間ではシングリックス接種数は 0 だった。
- ・金井病院の家庭医療外来で行った健康ニーズのアンケート調査(2021 11 月施行)では、コロナ禍でコロナワクチン以外のワクチンにも関心を持つ人が一定数存在することがわかった。

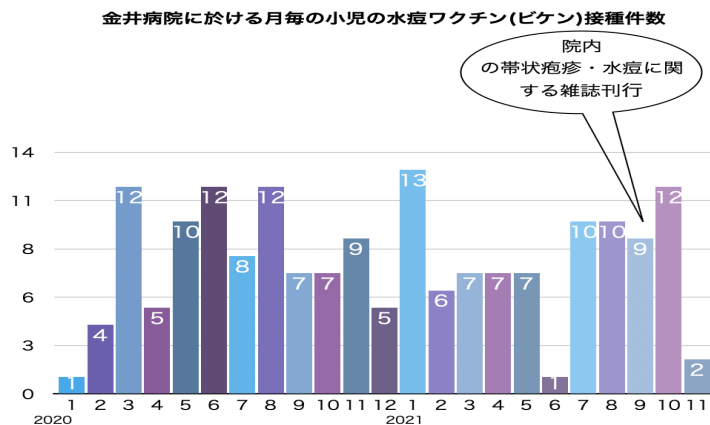


※帯状疱疹の病名で拾い、その中で単純疱疹は除外した。



※TV ネット配信：2017年4月～
動画配信：2020年10月～

※ピケンTVCMは2021年10月18日～11月14日のみ
(TVCMは近畿2府4県のみ)



4. データの解釈及び考察、感想

接種数が想定より大幅に少なかったことの原因として、金銭負担(シングリックス: 22000円×2回)が挙げられる。名古屋市では自己負担が半額となる助成制度があるなど、地域差を認める。その分、疾患の周知や希望者の接種を行える余地が大きい領域なのではと考えられる。実際、COVID-19を機に他のワクチンにも関心を抱く人が一定数存在することもわかった。次年度は担当者兩名とも他地域での勤務となるが、今回の地域診断を活かし、実践へと繋げたい。

参考文献:

1) 国立感染症研究所, IASR Vol. 39 p141-142: 2018年8月号

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2433-related-articles/related-articles-462/8236-462r08.html>

2) 2020(令和2)年12月25日第50回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和2年度第9回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会 資料1-6